

TEAM MASA

TEAM MASA は、2013年2月、地方の小さな大学の研究室で産声を上げました。その活動は、視覚障がいをもつ人も晴眼者も一緒にさわって鑑賞できるミュージアム資料の研究開発です。中心になっているのが、常磐大学コミュニティ振興学部中村正之研究室に集まる学生や卒業生、関心を持つ地域の有志たちです。

中村正之研究室では、2008年から、スウェルペーパー（熱膨脹紙）を使って「さわれる天体写真」や「さわれる顔の表情（喜怒哀楽）」などを作成し、全国各地で展示会を開催してきました。2013年春、山梨県立博物館の協力により「さわれる富嶽三十六景」の作品制作開始を機に、TEAM MASA の活動をスタートさせました。日本ライトハウス情報文化センターの助言も得て、同年秋には、全46作品を独自の手法で完成させました。

TEAM MASA はこれからも、さわって観ることにできる触覚型資料の研究開発を通して、すべての人が一緒になって楽しむことのできる機会を広げていきたいと願っています。



☆Profile

名前 中村 正之（なかむら まさゆき）

TEAM MASA スーパーバイザー

所属 常磐大学コミュニティ振興学部 教授

社会活動 さわれる天体写真展、さわれる喜怒哀楽展、さわれる富嶽三十六景展
大田原市ふれあいの丘天文館建設アドバイザー
「夢集団・星とロマンを語る会」代表

すべての人の幸せを願って活動する、それが私のモットーです。それこそが生涯学習の考え方だからです。すべての人が同じ資料を使ってさわって楽しむことのできるミュージアムを作りませんか。

☆Profile

TEAM MASA は、常磐大学コミュニティ振興学部の学生、卒業生を中心とした約20名からなる研究チームです。

メンバーの共通認識は「さわって楽しむ展示資料をすべての人に普及すること」です。私たちは「すべての人の幸せ」というキーワードを大切にしています。様々な障がいをおもちの方も健常者と同じ手法でミュージアムを楽しんでいただきたいのです。それこそがユニバーサル・ミュージアムの実現に向けての第一歩だと思います。

不可能とわれてきたことにチャレンジすることこそ、これからの日本や世界を元気にしていくことにつながると考えています。

茨城県水戸市見和 1-430-1 常磐大学コミュニティ振興学部 中村正之研究室内

